

復活節第2主日（神のいつくしみの主日）

2010. 4. 11

（ヨハネ 20：19～31）

おはようございます。今日は、聖週間の典礼に引き続き、助祭の奉仕として私が説教させていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

今読まれた福音は、復活節第2主日に毎年読まれる、トマスにイエスが現われてくださる話です。イエスは、私たちの罪のために十字架につけられ、命を捧げ、弟子たちに現われてくださり、聖霊まで注いでくださいます。イエスは、すべてを与え尽くして私たちに救いをもたらそうとされています。今日は、イエスに残された釘跡からにじみ出る「平和」を、私の召出し・家族との関わりと結びつけながら考えます。

十字架上で亡くなり復活されたイエスは1週間たって、直接弟子たちの前に現われます。そして、弟子たちに「平和があるように」と声を掛けます。その時弟子たちの気持ちは、どうだったでしょう？ 暗く沈んで、希望を見失っていました。大好きでいつも一緒にいてくださったイエスが殺されてしまった失望感、ユダヤ人から見つかったら先生のように殺されてしまう恐れ、イエスを見捨てにげってしまった罪悪感、どれも大変な重荷で、どうしたらいいかわからなくなって戸に鍵を掛けて閉じこもっていました。

イエスは、弟子たちを、失望感、恐れ、罪悪感から解放するために「平和があるように」と声を掛けますが、言葉だけで自分の思いを理解させることはできません。そこで、「平和」を実感させるために、十字架上で付けられた釘跡を弟子たちに示されます。弟子たちにとっては、自分たちの情けなさや申し訳なさを思い出させますが、あえてそうすることで、すべてがゆるされていることが段々と分かってきます。弟子たちは、やっと3つの苦しみから解放される喜びを実感できました。傷跡は、自分たちの弱さ情けなさ、イエスのゆるし、愛を感じさせました。この恵みから離れると私たちの生活は苦しいものになります。

3週間前に、助祭叙階の恵みをいただき、先週、ご復活祭を迎えた私も、イエスの傷跡から「平和・ゆるし・慰め」をいただいていた。けれども、先日、家族とのことで「心の平和」がなくなってしまいました。前にもお話しさせていただきましたが、私の家族は信者ではなく、イエズス会に入ることに反対していたので、助祭叙階式に招くことができませんでした。高円寺教会の8名の方々に家族の代わりに出席していただきました。そこで、9月の司祭叙階式には、出席してもらいたいと母に話をし、その返事がメールで返ってきました。その中の一部を読みます。「9月の式典ですが、貴方の言う様に聖堂のどこかから様子を見

守ることで、お父さんに話しました。私より抵抗があるようです。本来なら、両親として挨拶をしなければいけない方々がいらっしゃるのですが・・・家族としては、未だに納得出来ないのです。けれども、12年もの間、信念を貫いたことは、それなりの思いがあったのでしょうか。いろいろと、忙しくなるでしょうが、身体には気を付けて過ごしてください。母より」

このメールを読み返しながら、私は家族に取り返しのつかないことをしてしまっている、罪悪感をまた感じはじめてしまいました。家族への申し訳なさが、叙階の恵みも、ご復活の喜びも消し去ってしまったように感じました。けれども時間がたつにつれいくつかのことに気づいて来ました。

私は家族に傷を与えてしまっていますが、家族の傷はイエスの釘跡と重なること。どちらの傷も、私が失望するためでなく私を愛そうとして作られた傷であること。傷をなかったことにすれば、私の人生は根本的に否定されてしまうこと。このように思えてくると、実は、私は傷に感謝していいことにも気づきました。この傷が、人へ優しさの源となってエネルギーを与え続けてくれるように思えてきました。確かに、イエスにも家族にも傷を与えてしまいましたが、傷を思い出すことは、自分に注がれている愛を確認し、人を励ます力になることが分かってきました。この発見は、私にとって大きなものでした。

けれども、この気づきや発見は自分だけで、つかんだものではありません。気づけるようになったのは、私のことを日頃から心に掛け、祈ってくださっている人たちのおかげでした。傷の否定的な部分を見るよりも、受けている恵みを見ましようと思わせてくださる方々のおかげでした。高円寺の教会には、人のために親身になって祈ってくださる方々が沢山いらっしゃいます。改めてそのことを実感しました。

私たちは、先週、ご復活祭を迎えましたが、私のようにちょっとしたことで心の平和を失い、神様から受けた恵みを感じなくなりがちです。そんなときに、助けになるのは、祈りで支え合う共同体だと思います。高円寺の教会には、聖霊が働いています。人を助けたい、人のために祈りたいという人々が沢山いる教会です。心の平和がない、胸のつかえが取れないという方は声を掛けていただきたいと思います。イエスは、「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」と私たち一人ひとりに言われます。

私たち一人ひとりが、できることなら全員が、イエスを信じて救われていくプロセスに入っていけるように、そのための恵みを願いながらこのミサを続けましょう。

イエズス会助祭 柴田 潔